長谷川時雨（はせがわしぐれ）　劇作家、小説家。明治十二年九月一日（戸籍上十月一日）東京生れ、昭和十六年八月二十二日歿（一八七九―一九四一）。本名ヤス。筆名しぐれ、しぐれ女、しぐれ女史、はせ河時雨、奈々子、春子、時雨、時雨女史、水橋しぐれ、水橋しぐれ女、水橋やす子、水橋康子、長谷川おぐれ女、長谷川やす子、長谷川康子、長谷川時雨女等。明治三十年水橋家に嫁ぐも、のち作家三上於菟吉と同棲。四十五年中谷徳太郎と雑誌『シバヰ』を、大正十二年岡田八千代と『女人藝術』を創刊。また昭和八年婦人團體輝ク會を、十四年輝ク部隊を組織して、遺族や傷病兵の慰問など銃後の守りに尽力。畫家長谷川春子の長姉。

著書、歌集『玉琴』（長谷川おぐれ女名、合著・佐々木信綱編、明治四十一年四月十五日春陽堂）、『美人傳』（大正七年六月十五日東京社）、『名婦傳』（大正八年五月一日實業之日本社）、『時雨脚本集・一』（昭和四年九月二十日女人藝術社）、『現代デヤーナリズムの理論と動向』（合著、昭和六年十二月十五日内外社）、『草笛』（昭和十年七月十二日サイレン社）、『近代美人傳』（昭和十一年一月一十七日サイレン社）、『評釋一葉小説全集』（昭和十二年八月十五日富山房「富山房百科文庫」）、『隨筆『桃』』（昭和十四年二月十日中央公論社）、同『きものの』（昭和十四年十月二十日實業之日本社）、『現代婦人傳』（合著・神崎清編、昭和十五年五月二日中央公論社）、『愛國浪曲原作集』（合著・經國文藝の會編、昭和十六年二月十日大和書店）、『働くきんな』（昭和十七年五月八日實業之日本社）等。

文獻、生田花世著『一葉と時雨』（昭和十八年十月二十日潮文閣「新偉人傳全集」）等。